

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立亀岡高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・3年5・6組 「スポーツII」 選択者 24名 ・1年生 255名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (スポーツII・体育) ② 行事名 () ③ その他 () <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<p>(1) オリンピックスポーツの実践を通して、オリンピック・パラリンピック東京大会への興味関心を高めるとともに、スポーツに広く親しむ態度を身に付ける。</p> <p>(2) パラスポーツの実践を通して障がい者に対する理解を深め、共生社会を作っていく姿勢や心を育てる。</p> <p>(3) オリンピック・パラリンピックの歴史や価値、課題について理解を深め、オリンピック・パラリンピック東京大会への機運を醸成する。</p>
5 取組内容	<p>(1) ブラインドサッカー・ユニバーサルホッケーの実践 2・3学期の「スポーツII」の授業で継続して実施した。オリンピック・パラリンピックの動画を視聴しながらルールやドリブル・パス・シュートなどの基本的な動きのポイントを学習し、戦術練習や試合形式での実践を行った。</p> <p>(2) オリンピック・パラリンピック教育 体育の授業において、オリンピック・パラリンピックの歴史や価値・ドーピング、オリンピック・パラリンピック東京大会開催までの経過や現状について学習した。</p>

6主な成果

(1) ブラインドサッカー

目が見えない状態で動く中で不安や恐怖心を強く感じ、障がい者の感じる世界を体験することができた。視覚の情報がなくなると自分の立っている位置や方向が全く分からず、その中でボールを操っていくためには「ボールの音」や「ガイドの声」が非常に重要な情報となっており、音や声でサポートしていくことの重要性を実感することができた。パラリンピックへの興味関心を高めるとともに、障がい者理解を深めるきっかけを作ることができた。

① アンケート結果

(ア) 「障がい者への理解が深まったか」については24名全員が、「深まった」「やや深まった」と回答した。

(イ) 「パラリンピックへの関心が高まったか」については24名全員が「高まった」「やや高まった」と回答した。

② 生徒感想

- ・目が見えない状態で体を動かす怖さを知った。怖くて全然動けずボールを触ることができなかった。
- ・真っ暗闇の中だと前に進むだけでも勇気があることがわかった。
- ・自分がどの方向を向いているのか、どの場所にいるのか全くわからず、目が見えないことの不自由さを痛感した。自分一人では怖くて動けなかったが、ガイドの声があるだけで、恐怖感が和らぎ、周囲のサポートの重要性を理解できた。
- ・パラリンピックで活躍している選手の凄さを実感した。努力すれば人の可能性は大きく広げることができると分かった。





(2) ユニバーサルホッケー

体育の授業では実施していない種目ということで興味を持って活動することができた。長いスティックで小さなボールをコントロールすることは非常に難しかったが、逆にそれが生徒の意欲を掻き立てることにつながっていた。スティックをうまく扱うためには高度な技術が必要であり、フィジカルよりもテクニックの要素が大きいので、男女の競技力の差が出にくく、男女と一緒に競技できるという点でも非常に良い教材であった。ホッケーはこれまであまり触れるきっかけがなかった競技で、オリンピック種目として認識していない生徒もいたので、オリンピックへの興味関心を高めることができた。

① アンケート結果

オリンピックへの関心が高まったかという質問に対し、24名全員が「高まった」「やや高まった」と回答した。

② 生徒感想

- ・スティックでのボールの扱いが難しく、ドリブルでボールを失ったり、思ったところになかなか飛ばせなかったりしたが、思い通りにスティックが使えたときやパスが通ったときに楽しさを感じた。
- ・初めて行うスポーツだったということもあり、男女差があまりなく、男女混合でも楽しく競技をすることができた。
- ・攻守の交代が激しく、展開が速いスポーツに魅力を感じた。





(3) オリンピック・パラリンピック教育

体育の授業の中でオリンピック・パラリンピックの歴史や価値、ドーピングの歴史や課題について講義を行い、オリパラへの興味や関心を高めることができた。東京大会の開催が迫ってきているため、大会開催までの経過や現状について学んでいくことで、これまで以上にオリンピック・パラリンピックを身近なものとして考えるきっかけを与えることができた。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

- (1) 単発の運動体験にならないように授業を長期的に計画・実践した。「難しい・怖い」といった多くの生徒が最初に抱く感情だけでは教育効果が低いので、時間をかけて技能が高まっていくように段階的に授業を組み立てたり、ipadを使用して生徒が主体的に改善を図っていくように展開をしたりして、多様な観点から気づきを得られるように工夫した。
- (2) ブラインドサッカーにおいては単に競技の面白さや難しさを伝えるだけでなく、障がい者理解につながるように授業の前後で発問を多くして、考えるきっかけを与えるようにした。

8主な課題等

- (1) ブラインドサッカーでは目が見えない状態で動くため、接触などによる怪我のリスクがあった。ユニバーサルホッケーでは長いスティックを使用するため、膝より上には振り回さないように指導を繰り返し行ったが、試合形式の授業において競技に熱中するあまり、顔や体にスティックが当たって怪我につながるケースがあり、安全面での対策を十分に行う必要がある。
- (2) 専用の練習道具の確保が必要になる。道具の数に応じて授業を組み立てていく必要があるので、授業への導入や展開の仕方を工夫しなければいけない。

9来年度以降の実施予定

今年度実施した種目が非常に教育効果の高い内容であったので次年度も継続したい。内容の充実化を図るとともに、可能な限り対象者を増やして実施していきたい。